横浜市立上郷中学校
平成２６年度　学力向上アクションプラン

１　学校の状況と地域の実態

⑴ 学区が隣接する他の中学校から学区外通学する生徒が多い。保護者は学校の取組に協力的で理解がある。
⑵ 平成２７年度に庄戸中学校との統合を控えている。
⑶ 学習に関して個別の対応が必要だと思われる生徒がいる。
⑷ 本校に在籍しながら、ハートフルルームや、私立のフリースクールに通学している生徒がいる。
⑸ 小規模校のため職員数は多くないが、ベテランから若手まで、協力して学校運営に携わっている。

２　今後３年間の方向

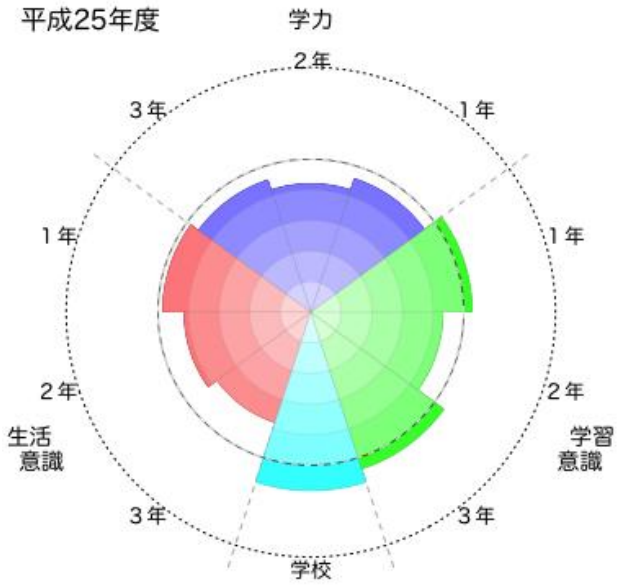
○生徒理解に一層努めるとともに、生徒と教師の信頼関係を深め、基本的生活習慣を確立させる。
○楽しくわかりやすい授業を創造するために、授業研修会を行う。
○子どもが学習の主体となるような授業の展開を考え、能動的に学ぶ姿勢を育成するとともに、毎日の課題（宿題）と「わかる授業」の実践を通じて、基礎的な内容の定着をはかる。
○近隣の小学校と連携して９年間を見通したカリキュラムを検討する。

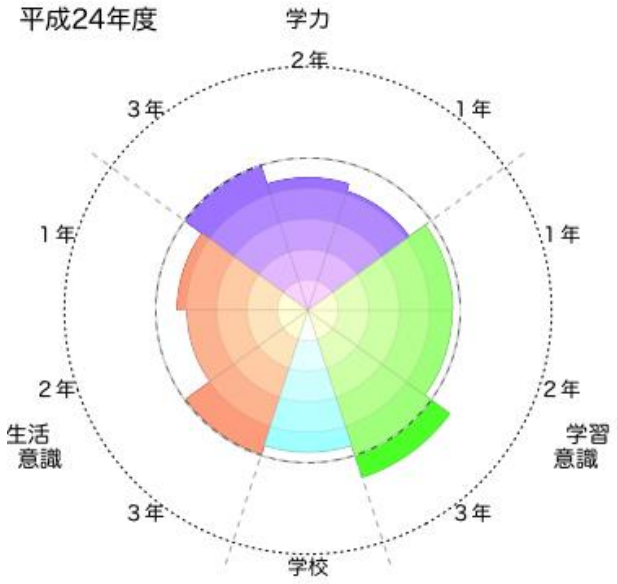
３　横浜市学力学習状況調査等からの平成２６年度の実態把握

⑴ 学力の概要と要因の分析

学校全体的に、横浜市の平均を下回る状況である。１、２年生での学力は、５教科とも市平均を下回っている。また、生活意識も下回っている。

分析チャートを個々に見ると、教科や学年によって差が生じている。個々の教師の力量に任している現状がある。学力向上に向けては、基本的生活習慣の確立と、安定した授業展開につながる組織的な生徒指導のさらなる充実が必要である。





⑵ 教科学習の状況

国語

国語科の勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」をあわせた値は７割を超え、学習意識は市平均と比べて高い。しかし、学力層Ｃ・Ｄの生徒が５割を占め、標準得点・正答率ともに市平均よりも低い。観点別に見ると、特に「読む能力」「書く能力」「言語事項」の観点に課題がある。漢字の書き取りの力や、いろいろな文章を読み取る力を向上させると共に、文章を書く機会を多く設けるなど、書くことに対する苦手意識を解消する手立てが必要である。

社会

「思考・判断・表現」の観点や「技能」の観点ではほぼ市平均か、もしくはやや下回っている状況である。言語活動をより多く行い、伸ばしていくことが課題である。「知識・理解」の観点では、市平均を大きく下回っているので、単元の終わりに小テストなどを行い、力をのばしてことが課題である。

数学

全体的に、横浜市の平均を下回る状況である。知識・理解、技能の理解の低さが数学的考え方に影響が出ている。特に、現２年は数学に対する興味・関心が低いので、分かりやすい授業を心がけたい。基礎・基本の定着に課題があり、数学が必要であるという意識を高めたい。

理科

全体的に、市平均を下回っている状況である。学習意識も市平均を下回っているので、身近なことと関連付けながら授業を展開していく。特に、２年生は理科に対する意識が低いので、興味を引きやすい実験・観察などを取り入れていくことが課題である。

外国語

横浜市の平均的状況と比べると、英語に苦手意識を持っている生徒が多く、学力層Ｃ，Ｄの生徒の割合が６５％あり、標準化得点や正答率ともに市の平均を下回っている。しかし、誤答であっても表現をしようとする意欲は回答の結果から感じることはできる。表現する力と読解の力に課題がある。また、文を構成する語順にも苦手意識がある。

⑶ 経年変化の状況と要因の分析

生徒は各教科について学習意識が低く、学習することの意義を感じている生徒が少ない。全学年の学力層で見ると、ＣＤ層の生徒が市平均よりも２～14%多く、教科書レベルの基本的な内容を十分に身につけていない生徒が多い。また、１、２年生においては、１日の家庭学習 120 分以内の生徒が市平均よりも約 10%多い状況である。勉強が嫌いと回答している生徒が市平均よりも、２年生においては８％多い状況が見られる。

４　平成２６年度　目標と具体的方策

目　　標

学習の意識や必要性を理解し自主的に学習に取り組む生徒を育むために、各教科で基礎・基本を充分に習得できる授業を行う。

⑴ 学校組織としての共通の取組

〇基礎・基本を充分に習得できる授業の確立

・小テスト等で生徒が授業内容を、どの程度理解しているかを把握し個別の学習支援方法を考えた授業を行う。

・サマー学習会などの補習を実施することで基礎・基本を身につけ、授業が分かる生徒を増やす。

〇教科指導の充実

・学習の基本となる教科の充実を図るために、教科会を開き指導における内容や方法について共通理解を図る。

・小中連携等で授業を公開したり、授業研究会を行ったりし、教科指導方法の充実を図る。

〇学習習慣の向上

・５教科を中心に、まとめのプリントを用意し、帰りの学活で宿題として配り次の日の帰りの学活で答え合わせをし、回収するなど家庭学習の充実を図る。

⑵ 学年・教科としての取組

国語

〇漢字など基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させる。

〇読書を推奨し、たくさんの文章に触れる機会をつくり、読む力を高める。

〇短文作りや感想書きなど短い文章を書く機会を多く設け、書くことに慣れさせることによって、書くことへの苦手意識を解消する。

〇生徒の学習意識の高さを生かして、スピーチなどの発表や討論などの言語活動の充実をはかる。

社会

○授業でわかったことや考えたことなどをノートに書かせ、思考や表現などの力の定着を図る。
○単元に関する内容を調べ、発表する活動や少人数によるディベートなどを取り入れ、自分の考えを深める力を養う。
○単元の終わりに小テストを行い、基礎的な用語を理解する。

数学

○授業の最初に小テストを行い、前の授業の確認をしていきたい。特に、基礎・基本の定着を図りたい。
○数学的な思考を高めるために、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業を心がける。

理科

○プリントを活用した授業を展開していくことで、基礎的な知識の定着を図る。
○科学的思考力を育てるために、実験の予想・考察の時間を積極的に設ける。
○興味を引けるように、身近なことと関連付けながら授業を展開していく。

音楽

○合唱コンクール等では他教科領域の学習と関連付け、生徒がより主体的に学習できるようにする。
○観賞領域では様々なジャンルの音楽に触れて、表現や創造力が豊かになるような学習を取り入れる。

美術

○庄戸中との統合に向けてカリキュラムの移行を行う。
○生徒一人ひとりが意欲的に表現主題を追求できるように、基礎的・補充的な指導を充実させる。

技術・家庭

○興味・関心を引く教材を活用し、生徒一人ひとりの課題を明確にする授業を行う。その課題を解決することで、基礎・基本の学力の定着を目指す。
○情報の授業で表現力を向上させる題材を設定する。

英語

○基本的な英文のパターンの繰り返す練習をすることで基本表現を身につけさせる。
○語順の練習を行う。
○生徒にとって身近な題材で発表や表現をする活動を行う。

特別活動

○コミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係を築かせるために、行事活動の充実を図る。
○話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

総合的な学習の時間

○職場を選択する活動を通して自分への気付きを深め、具体的な行動につなげて考えるようにする。
○体験で学んだことを整理分析することで、自己の将来について考えを深められるようにする。

個別支援学級

○個別の指導計画に基づき、個にあった指導方法を工夫し、評価・改善を行い、指導の充実を図る。
○授業形態や学習集団の構成を工夫し、個々のコミュニケーション能力の育成を図る。